

## C-1 指導案

### 地理歴史科学習指導案

指導者 石川県立七尾高等学校

指導日時・教室 平成21年 9月10日(木) 6限目 教室名 22H  
対象生徒・集団 普通科 文系 2年生 34人(内訳 21H 17人・22H 17人)  
科目名 世界史B (単位数 4)  
使用教科書 詳説世界史B (出版社名 山川出版社)

#### 1 単元名 第1部 第4章 内陸アジア世界の変遷 3 モンゴル民族の発展

#### 2 単元の目標

- ・内陸アジアの風土、遊牧国家の動向に触れ、モンゴル帝国に対する関心を高め、日本を含む東アジア世界と内陸アジア世界の形成過程について把握し、基本的知識を身につける。  
【知識・理解】
- ・モンゴル帝国の興亡と諸地域世界や日本の変動に触れ、内陸アジア諸民族がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について考察し、その歴史的意義を的確に判断する。  
【思考・判断】

#### 3 指導に当たって

##### (1) 生徒の状況

素直な生徒が多く、真面目に授業に取り組むクラスである。しかし、積極的に発言することは少なく、また講義形式の授業になると集中力が途切れ、興味・関心を示さなくなる生徒もいる。

##### (2) 指導方針

授業で取り上げる地域・国家について、物語や歴史小説などを紹介し、興味・関心を持たせる。また、資料集や地図を使い、生徒自らが調べ、考える場面を設定する。そして、知識の定着を図るため、ポイント整理を行う。

##### (3) 教材選定の理由

マルコ＝ポーロが口述した『世界の記述』の内容を知ることにより学習に対する高い関心を持つことができ、世界史の中の日本を実感できる。また、中学時に元寇について学習しており、モンゴル帝国が与えた日本への影響の大きさについても理解を促しやすいと考える。

#### 4 単元の指導計画 (総時数 4時間)

- 第一次 遊牧民とオアシス民の活動 (1時間)
- 第二次 トルコ化とイスラーム化の進展 (1時間)
- 第三次 モンゴル民族の発展 (2時間)
  - 1時 モンゴルの大帝国と元の東アジア支配
  - 2時 モンゴル時代のユーラシアと帝国の解体・・・本時

#### 5 本時の指導と評価の計画 (第三次 第2時)

##### (1) 本時のねらい

- ・モンゴル帝国について、訪問した人物や流入した宗教・文化を知り、東西交流に果たした役割を理解する。  
【知識・理解】
- ・『世界の記述』の中で日本がどのように紹介されているのかを確認し、この旅行記がヨーロッパ人に与えた影響を考察する。  
【思考・判断】

##### (2) 準備・資料等 最新世界史図表(第一学習社)、ワークシート

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
導入 5分	元代の陸路貿易と海上貿易	駅伝制の整備や海運の発達により大都が陸海交通の要となったことを理解する。	東西交通路の整備により東西文化の交流がさかんになったことを確認する。	
展開 (1) 20分	東西文化の交流	プラノ＝カルピニ、ルブルックがモンゴル帝国を訪れた際の経路、派遣された理由を理解する。  モンゴル帝国を訪問した人物や流入した宗教・文化にはどのようなものがあるかを確認し、モンゴル帝国が東西交流に果たした役割について理解する。	資料を用いて二人の経路と派遣された理由を確認する。  資料を用いて確認する。  ユーラシア全土を結んだネットワークが形成されたことを確認する。	モンゴル帝国を訪問した人物や流入した宗教・文化をあげることができる。 【知識・理解】 (ワークシートの記入・発表、提出)
展開 (2) 20分	1.『世界の記述』  2.モンゴル帝国の解体	『世界の記述』を読み、日本がどのように紹介されているのかを確認し、またこの旅行記がヨーロッパ人に与えた影響を考察する。  元の中国支配が100年足らずで失敗した理由を確認する。	ヨーロッパ人のアジアへの関心を高めることになったことを確認する。  大航海時代への要因の一つになったことを説明する。  交鈔の濫発が物価の騰貴、経済混乱を招いたことを説明する。	『世界の記述』がヨーロッパ人に与えた影響を説明することができる。 【思考・判断】 (意見の発表) ・「日本を黄金の国として伝えている」 ・「アジアへの関心を高めることになった」ということに気付いているか。
まとめ 5分	学習事項確認	本時の授業での学習項目を再確認する。	授業プリントで確認する。	